

## 第7次愛媛県地域保健医療計画（別冊）

## 第1期愛媛県医師確保計画及び外来医療計画の評価について

- ・ 医師確保計画の実行性を上げるためには、具体的な数値目標の設定と評価を行い、その評価結果に基づき、計画の内容を見直すことが重要である。
- ・ 厚生労働省が定める「医師確保計画策定ガイドライン」においては、計画の効果について、計画終了時点で活用可能な最新データに基づいて測定・評価することとされている。
- ・ 厚生労働省から提供のあった医師偏在指標等の最新データや「医師・歯科医師・薬剤師統計（以下「三師統計」という。）」の最新結果（令和2年分）等を用いて、本計画で設定した目標医師数等について測定・評価したので報告する。
- ・ 併せて、外来医療計画についても、地域に必要な外来医療提供体制を確保するため実施した支援について取りまとめたので報告する。

## ◆第1期計画期間

2020年（令和2年）～2023年（令和5年）までの4か年

〔第1期愛媛県医師確保計画における目標医師数の設定状況〕

圏域 区分	圏域	厚生労働省算出				愛媛県計画 (2020(R2)–2023(R5))	
		算定時点 医師数 (2016年 (H28年))	目標 医師数 (2023年 (R5年))	将来時点 の必要医 師数 (2036年 (R18年))	2036年 (R18年) までに確 保すべき 医師数 D=C-A	計画期間に おいて確保 すべき医師 数 E=C/7*4	目標医師数 (2023年 (R5年)) F=E-A
—	愛媛県	3,609	3,056	3,553	—	—	3,609
医師 多数 区域	松山	2,180	1,207	2,016	—	—	達成済
医師 中程 度区 域	宇摩	145	128	198	53	15	160
	新居浜・西条	446	344	533	87	40	486
	今治	310	245	350	40	26	336
	八幡浜・大洲	271	212	289	18	22	293
	宇和島	257	202	276	19	21	278
	小計	1,429	1,131	1,646	217	124	1,553

注) 産科医及び小児科医については、相対的医師少数区域以外の地域においても医師が不足している可能性があるため、目標医師数は設定していない。

〔目標医師数に対する進捗状況〕

区分	圏域	第1計画期間における確保すべき医師数	R5 目標 医師数	H28 現在 医師数	R2 現在 医師数	H28→R2 現在医師 数の 増加数	目標医師 数との差	進捗率	評価
		A	B	C	D	E=D-C	F=A-E	G=E/A	
—	愛媛県	—	3,609	3,609	3,693	84	達成	達成	◎
医師多数 区域	松山	—	2,016 ※達成済	2,180	2,240	60	達成済	達成済	◎
医師中程 度区域	宇摩	15	160	145	157	12	3	80.0%	○
	新居浜・ 西条	40	486	446	442	▲4	44	▲10.0%	△
	今治	26	336	310	335	25	1	96.2%	○
	八幡浜・ 大洲	22	293	271	263	▲8	30	▲36.4%	△
	宇和島	21	278	257	256	▲1	22	▲4.8%	△
	小計	124	1,553	1,429	1,453	24	100	19.4%	○
(参考) 医師少数 スポット	久万 高原町	13	—	13	13	0	—	0.0%	△
	愛南町	30	—	30	31	1	—	3.2%	△

※現時点の三師統計の最新データは令和2年分であるため、当該データを用いて評価を行った。

評価

- ◎…目標値に達している
- …目標値に達していないが改善に向けて推移している
- △…改善が見られない

〔医師偏在指標による比較〕

第1期計画策定時：2019年（R元年）

圏域	医師偏在 指標	全国順位	区分
全国	239.8	—	
愛媛県	233.1	25/47	
松山	287.9	36/335	多数
宇摩	162.1	220/335	中程度
新居浜・ 西条	186.4	141/335	中程度
今治	168.7	200/335	中程度
八幡浜・ 大洲	166.8	205/335	中程度
宇和島	172.1	185/335	中程度

第2期計画策定時：2023年（R5年）

医師偏在 指標	全国順位	区分	(参考) 順位の変動
255.6	—		—
246.4	26/47		▲1
292.0	44/335	多数	▲8
190.7	190/335	中程度	30
199.4	164/335	中程度	▲23
198.4	167/335	中程度	33
180.2	221/335	中程度	▲16
187.9	197/335	中程度	▲12

※全国の二次医療圏域数は335圏域であり、このうち全国順位で下位33.3%に該当する圏域（224位以下）が「医師少数区域」となる。本県はすべての圏域において、第1期計画策定時及び第2期計画策定時とも「医師少数区域」には該当していない。

## ◆評価

### <三次医療圏>

#### ○愛媛県

- ・第1期計画策定時の医師数 3,609 人と比べ 84 人増加の 3,693 人となっており、目標医師数を達成している。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度都道府県」を維持、順位は 25 位から 26 位となっている。

### <二次医療圏>

#### ○宇摩圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 145 人と比べて、12 人増加の 157 人となっており、目標医師数 160 人まで残り 3 名（進捗率 80.0%）となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 220 位から 190 位となっている。

#### ○新居浜・西条圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 446 人と比べて、4 人減少の 442 人となっており、目標医師数 486 人まで残り 44 名（進捗率▲10.0%）となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 141 位から 164 位となっている。

#### ○今治圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 310 人と比べて、25 人増加の 335 人となっており、目標医師数 336 人まで残り 1 名（進捗率 96.2%）となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 200 位から 167 位となっている。

#### ○松山圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 2,180 人と比べて、60 人増加の 2,240 人となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師多数区域」を維持、順位は 36 位から 44 位となっている。

#### ○八幡浜・大洲圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 271 人と比べて、8 人減少の 263 人となっており、目標医師数 293 人まで残り 30 名（進捗率▲36.4%）となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 205 位から 221 位となっている。

#### ○宇和島圏域

- ・第1期計画策定時の医師数 257 人と比べて、1 人減少の 256 人となっており、目標医師数 278 人まで残り 22 名（進捗率▲4.8%）となっている。
- ・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 185 位から 197 位となっている。

#### ○松山圏域を除く二次医療圏全体

- ・第1期計画策定時の医師数 1,429 人と比べて、24 人増加の 1,453 人となっており、目標医師数 1,553 人まで残り 100 名（進捗率 19.4%）となっている。

※県全体では医師が 84 人増加しているものの、圏域別では、「宇摩」、「今治」及び「松山」の 3 圏域で増加した一方、「新居浜・西条」、「八幡浜・大洲」及び「宇和島」の 3 圏域では減少しており、医師確保は着実に進んでいるものの、地域間偏在の是正には至っていない状況。

※医師偏在指標上は、本県は「医師中程度都道府県」であり、全ての圏域が「医師少数区域」には該当しないものの、中には「医師少数区域」に近い圏域もあることから、医師確保及び偏在是正対策に継続して取り組む必要がある。

## ◆第1期計画に基づき実施した主な取組

### 【医師の養成とキャリア形成支援】

- ・ 愛媛県地域医療支援センターにおいて、地域枠の学生や地域枠医師に対し、面談等を通じて地域勤務への不安解消等に取り組むとともに、キャリア形成プログラム及びキャリア形成卒前支援プラン等に基づき、医師一人一人の将来に向けたキャリア形成について支援を行った。
- ・ 地域医療をテーマとした参加型の勉強会を開催したほか、地域医療の現場で活躍する医師による講演やワークショップを開催するなど、若手医師の地域医療に対する意識の醸成を図った。
- ・ 地域サテライトセンターが設置されている久万高原町等において、患者や住民、現場で働く医療従事者等との連携のもと、地域で求められる多様なニーズを学ぶための医学生を対象とした臨床実習を行った。
- ・ 基幹型臨床研修病院を新たに追加し、本県の地域医療を担う若手医師の臨床研修体制の充実を図るとともに、臨床研修医の確保に向けて、臨床研修医の都道府県別上限を地域の実情に応じた適切な設定数とするよう、国に要請を行った。
- ・ 将来の本県の医療を支える専攻医の確保を図るため、専攻医の勤務環境改善やシーリングの見直しなど、新専門医制度のさらなる改善について、国に対して要請を行った。

### 【地域枠医師等による医師確保対策】

- ・ 地域枠医師等の奨学医師は、市町の要望、関係医療機関のニーズや医師本人の希望も踏まえながら、県内の医師が不足する地域の中核病院等に配置した。
- ・ 自治医科大学卒業医師は、市町等の要望や医師本人の希望も踏まえながら、県内のへき地医療機関等に配置した。
- ・ 医師が不足している地域における医師確保と、地域枠医師等のキャリア形成の両立を図るため、愛媛県キャリア形成プログラムに基づき、義務年限終了後も県内へ定着し活躍できるよう関係機関の協力のもと育成に取り組んだ。
- ・ 義務年限終了後の自治医科大学卒業医師の県内定着の促進を図るため、県立中央病院へ「地域医療キャリア形成支援センター」を設置した。
- ・ 愛媛プラチナドクターバンク事業の実施により、県、県医師会、愛媛大学医学部が連携して、県内外の医療機関を退職（退官）する医師を主なターゲットとして医師不足地域等の医療機関とのマッチングを図った。
- ・ 県の寄附により愛媛大学に設置した「地域医療学講座」において、地域枠学生をはじめとする医学部生を対象とした地域医療に係る講義・実習等を行い、総合的な診療能力を有する医師を育成した。

### 【県外からの医師確保】

- ・ 愛媛大学及び県内基幹型臨床研修病院との連携のもと、大都市圏で開催された「臨床研修病院合同説明会」に参加し、本県の臨床研修病院の魅力を積極的にPRしたほか、県外の医学生に対し、県と愛媛大学との共催により実施した「臨床研修病院説明会」や地域の医療機関が実施する「現場体験実習」への参加を促すなど、県外からの臨床研修医の確保に取り組んだ。

### 【県内への定着支援】

- ・ 愛媛県医師会との連携のもと、出産・育児及び再就職等に不安を抱える女性医師の復職等に関する相談窓口を設置・運営するとともに、キャリアアップ研修への参加支援などを行った。
- ・ 県医療勤務環境改善支援センターや愛媛労働局等関係機関と協力し、県内医療機関の医師の働き方改革に向けた支援を進めるなど、各種研修会の実施や個別の訪問支援等を行った。

### 【医師少数スポットに特化した対策】

- ・ 市町の要望、関係医療機関のニーズや医師本人の希望も踏まえ、自治医科大学卒業医師や地域枠医師を配置するとともに、キャリア形成支援センター所属医師による診療支援を行った。
- ・ 県立南宇和病院を総合診療専門医を志す若手医師の研修拠点とし、5G通信の活用を見据えた地域医療提供体制のモデルとするなどの研修体制の充実を図った。
- ・ 県の寄附により愛媛大学に設置した「地域医療学講座」において、久万高原町立病院及び県立南宇和病院に設置した「地域サテライトセンター」を活動拠点とし、診療を通じた地域医療への支援や、学生への講義、実地研修等を行った。

### 【産科、小児科における医師確保対策】

- ・ 県の寄附により愛媛大学に設置した「地域小児・周産期学講座」において、小児・周産期医療システムの構築に向けた研究や、小児・周産期医療を担う人材育成などを行い、東予・南予における小児・周産期医療の維持・確保に取り組んだ。
- ・ 愛媛大学が実施する、産科医等の医療従事者の確保・定着を図るための事業に対して、経費の補助を行った。
- ・ 愛媛県地域医療医師確保短期奨学金制度における「特定診療科枠(産科医師確保特別奨学金)」の活用を通じて、特に不足する産科医の確保に努めた。

## ◆外来医療計画に基づき実施した主な取組

### ○在宅医療普及推進事業

- ・ 在宅医療の普及啓発等に関する研修や講演等に取り組む団体を支援した。

### ○在宅医療連携拠点運営支援事業

- ・ 地域における包括的・継続的な在宅医療の提供体制の充実・強化を図るため、在宅医療に関する多職種の支援、情報の集約等の機能を備えた松山市医師会在宅医療支援センターの運営に要する費用を補助した。

### ○病床機能分化連携基盤整備事業

- ・ 円滑な在宅復帰につなげていくため、病床機能の分化・連携を行う医療機関に対して補助を行い、病床の機能分化・連携を図った。
- ・ ICTを活用した地域医療ネットワーク基盤の整備を行う医療機関に対して補助を行い、地域医療連携の強化を図った。
- ・ 愛媛県広域災害・救急等医療情報システム(救急搬送情報システム)を運用し、救急現場と医療機関をネットワークで接続し、患者情報等を共有することで各医療圏域の救急医療体制の強化と他圏域との連携強化を図った。

○地域医療体制確保医師派遣事業

- ・ 協力機関から要支援医療機関に医師を派遣し、協力医療機関に対して医師派遣調整金の支給を行い、圏域ごとに自立した医療提供体制の整備を図った。

○救急医療対策事業費

- ・ 当番日以外にも救急患者を受入れるなど、二次救急医療体制を補完している医療機関等に対する支援を行った。

○医師確保対策推進事業<ドクターバンク>

- ・ 愛媛プラチナドクターバンク事業の実施により、県、県医師会、愛媛大学医学部が連携して、県内外の医療機関を退職（退官）する医師を主なターゲットとして医師不足地域等の医療機関とのマッチングを図った。【再掲】

○若手医師等定着支援モデル事業

- ・ 各圏域の郡市医師会等が中心となって若手医師・医学生に対して研修会等を開催した。
- ・ 女性医師の就労等に関する研修会・講演会等を行い、女性医師等の離職防止や再就業の促進を図った。

◆医師確保に関する今後の予定

地域の医療ニーズや課題を踏まえて地域医療構想等の地域の医療政策と整合を図りつつ医師確保対策を実施するとともに、今後、臨床研修を終える地域卒医師の増加に伴う医師配置等において、市町や医療関係団体、大学、関係する医療機関等と連携して地域に必要とされる医療を確実に提供できる体制の整備を進める。

なお、医師確保対策及び偏在の是正については、地方の努力だけでは限界があることから、国に対し、実効性のある対策の実現について引き続き要望していく。